反天皇制運動
Alert
45号
［通巻427号］
2020年
3月10日発行
第Ⅹ期・反天皇制運動連絡会

今年に入ってまもなくの1月19日、福岡地区合同労組の筒井修さんの訃報が反天連公式アドレスに届いた。亡くなったのは前日18日朝とのこと。公式アドレスを通して知る筒井さんの訃報に寂しさを感じたが、同時に筒井さんと私たちの関係性らしさも感じたのだった。私の知る、寡黙にいつもそこにいるという印象の筒井さんは、東京の反天皇制運動にもそのような協力者としていてくれた。東京での取り組みについて電話で問い合わせてくれたり、反天実行委の参加賛同者にはたびたび「福岡地区合同労組」の名前を連ねてくれた。問い合わせがあった行動には参加もしてくれた。その時々につながりを感じ心強くもあり、嬉しかった。

筒井さんと初めて会ったのはいつどこでだったのだろう。何かの行動で福岡に行くと、いつも筒井さんはいた。そういう存在だったから、最初の時を思い出せないが、ヒロヒトXデーのあたりである。それにしても、筒井さんには福岡を訪れるたびにいろいろとお世話になった。そのことは書き残さねば。ご馳走になったり、「一人の首切りも許さない」（だったか？）が大書された合同労組の車には何かにつけお世話になった。事務所にも何度も泊めていただいた。反天連一同ありがたかったです。

ヒロヒトXデーの頃、そんなに若くもなかったけど何もよくわかっていなかったはずの私を、一世代上のオヤジたちは、まったく乱暴だったけど引っ張っていってくれた。筒井さんもそうだったのだろうか。福岡の親しい友人は「ひとつの時代が終わった」といった。近くで見てきた人の率直で悲しい言葉だった。でも上の世代が作り出したものがなくなるわけでもない。その延長に現状があることの方が多い。批評も継承も残る私たちが考えねばと思う。（桜井大子）

今月のAlert◉新型コロナウイルスに便乗した「緊急事態条項」先取りをゆるすな――＊2
反天ジャーナル◉――宮下守、大橋にゃお子、映女＊3
状況批評◉日本国家の戦争責任・植民地支配責任にかんする天皇の謝罪について――伊藤晃＊4
ネットワーク◉「日の丸・君が代」ＩＬＯ／ユネスコ勧告実施市民会議、３月１日発足――渡辺厚子＊6
太田昌国のみたび夢は夜ひらく〈117〉◉信じられないほどばかなことが起こる時代――太田昌国＊7
マスコミじかけの天皇制〈44〉〈壊憲天皇制・象徴天皇教国家〉批判 その９◉１９４０年（「皇紀二千六百〈建国〉祭」・万博・オリンピック）と、２０２０年（「天皇代替わり」儀礼・オリンピック）――天野恵一＊8
野次馬日誌＊9　集会の真相＊10　学習会報告＊11　反天日誌＊12　集会情報＊12

250円
●定期購読をお願いします（送料共年間４０００円）
●郵便振替　00140-4-131988　落合ボックス
東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A　淡路町事務所気付　落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460　URL http://www.ten-no.net/mail: hanten@ten-no.net
●以前の情報はこちら▶ http://hanten-2.blogspot.jp/

今月の Alert

新型コロナウイルスに便乗した「緊急事態条項」先取りをゆるすな

新型コロナウイルスの感染拡大とともに、大きな変動が生み出されている。政権が「場当たり的」であるとか、初動の対応のまずさとかが指摘されているが、こうした「災害」に便乗して、権力強化の動きが強まっている。

ウイルスの感染を調べるPCR検査を受けたい人が受けられない問題は国会でも取り上げられた。医師が必要としたにもかかわらず、保健所が検査に応じなかったケースも少なくない。そもそも、検査に保険が適用されないままできたという問題もあった。

安倍政権が検査に一貫して消極的なのは、検査の結果、感染者の多さが明らかになることによって、2020東京オリンピックの開催が危うくなることを懸念してのことだと言われている。全くもってその通りだろう。そもそもオリンピック招致における「アンダーコントロール」発言からして、安倍らにとって民衆の健康や生活などということにたいして、本質的には何の関心も持っていないことは明らかだ。今回も、コントロール下にあるのは真実を示す情報の方である。

感染が広がり社会的な不安も広がる中で、安倍は突如として全国の学校の休校を「要請」した。中韓をターゲットに、ヘイトというしかない入国制限措置を発表した。そして「新型インフルエンザ等対策特別措置法」を改正したうえで、緊急事態宣言を出すことが検討されはじめた。特措法の条文によれば、これによって都道府県知事は、「生活の維持に必要な場合を除きみだりに当該者の居宅又はこれに相当する場所から外出しないこと」を期間と区域を決めて住民に要請できるし、同じく学校、社会福祉施設、興行場（映画、演劇、音楽、スポーツ、演芸などの施設）の管理者に対し、施設の使用制限もしくは停止を要請できる。また、イベントの主催者にイベント開催の制限もしくは停止を要請できる、とある。ほかにも、臨時医療施設のための土地使用や物資の売渡しの要請、物価統制までが可能になる。

「要請することができる」といっても、それは実質的な強制だろうし、過剰な同調圧力が日常化しているこの社会において、行政の忖度や住民の相互監視が強まることは容易に想像できる。権力者にとって、感染症の問題とは常に社会防衛・治安管理の問題として位置付けられてきた。今回の特措法改正＝非常事態宣言も、自民党が憲法への導入を狙ってきた「緊急事態条項」の先取りにほかならない。ただでさえ、安倍の「独走」が目立つ。これ以上、彼らのやりたいようにやらせておいていいのか。できるところから反対の声を大きくしていかなければならない。

この間、運動関係でも多くの集会が中止となっている。私たちに近いところでも、集会会場が閉館することを決めた結果、急遽集会の中止に追い込まれる事態があった。もちろん、主催者がリスクを考え、熟考のうえそのような選択をしたのであればよいが、それが行政権力によって一律に中止させられるとすれば、表現・言論の自由、権力批判の自由に対する重大な侵犯であることは明らかだ。

権力の側のイベント中止もあいついでいる。二月二三日の新天皇誕生日の一般参賀の中止に続いて、三月一一日の東日本大震災追悼式の中止も決まった。習近平来日・天皇会談も延期だ。このような、天皇・皇族イベントも含めて中止となるについては、やはり感染拡大を阻止して、オリンピックだけはなんとか実現したいという彼らの願望があるだろう。

こうしたなかでも、天皇一族はまだこの件について正面切って発言をしてはいない。徳仁も天皇誕生日記者会見で、「罹患した方々と御家族にお見舞いを申し上げます。それとともに、罹患した方々の治療や感染の拡大の防止に尽力されている方々の御労苦に深く思いを致します。感染の拡大ができるだけ早期に収まることを願っております」と述べただけだ。しかし、今後の患者拡大状況によっては、必然的に天皇の果たす役割が引き出されてくるはずである。

それはおそらく、二〇一一年三月一六日のビデオメッセージにおいて明仁が述べたように、未曾有の「国難」に対しては、心を一つにして「国民」的に対処していかなければならないというメッセージであろう。「国論」が分裂する危機が生じたときに、それを「上から」弥縫し、観念的・心情的に一つになることで矛盾の解消を図っていくことこそ天皇制の役割である。そのようにして実現される「国民統合」とは、まさに異論を封殺していく政治的暴力だ。新天皇徳仁もまた、そのような役割を果たすことを、象徴天皇の「つとめ」として自覚しているに違いないのだ。

（北野誉）

オリンピック返上が原状回復？

新型コロナで五月には二〇二〇年オリンピックが東京開催じゃなくなる可能性があると言う／どう思いますかって一言で言えるほど単純じゃない
三角ベースをした明治公園がなくなり／スイミング教室で使用した国立競技場がなくなり／レンタサイクルをした道路がなくなり／チャリを止めて高校野球を見た神宮第二球場が使用禁止になり／武上から中西そして土橋と一年で三回も監督が変わったヤクルトの本拠地神宮球場が移動し／鈴木愛理が「ライブハウス青年館へようこそ」と叫んだ日本青年館が消滅した
新型コロナで二〇二〇年のオリンピック開催がロンドンになったらこの風景が復活するのか
都立霞ヶ丘アパートが復活し住民が戻れるのか
亡くなった人はいるぞ
一九六四年栄光の東京オリンピックのために作られた仙寿院下のトンネルは幽霊が出没する心霊スポットと言うが出るのはお化けではなく地域で生活した人々の思いだろう／それを成仏させるような行為を一度もしてこなかったではないか／日本国及び日本国民は
国立競技場が取り壊され平地になった場所から見えた富士山、あの光景が見られただけ良かった
なんて思わないからな

（宮下守）

ゾンビ映画あれこれ

ホラーにおける「ゾンビ」とは、「死体のまま蘇った人間」のことである。なぜ蘇るかは作品により様々だが、最近だと「生物兵器用のウィルス」「宇宙からの謎のウィルス」という感じである。〝オバンバ〟で有名な『バタリアン』や、ゲームから映画化された『バイオハザードシリーズ』は前者だ。そして、「ゾンビ作品の金字塔」と呼ばれるロメロ監督の「ゾンビ三部作」の一作目、『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』では（明確化はしていないが）、「宇宙で人工衛星が爆発し大量の放射線が降り注いだことと因果があるかもしれない」という描写がある。更に黒人を主人公にしており、公民権運動と関連性を持たせている作品でもある。

二作目の『ドーン・オブ・ザ・デッド』では巨大なショッピングモールを舞台とすることで資本主義批判を、三作目の『デイ・オブ・ザ・デッド』では保守政治と新自由主義を推し進めたレーガン政権への痛烈な批判が込められている。

実は彼は2000年代に入ってから二作品のゾンビ物を制作している。もし、ロメロ監督が日本社会とゾンビを絡めたら、格差社会とブッシュ政権を批判した『ランド・オブ・ザ・デッド』のような作品内容になるのではないだろうか。興味を持った人は必見です。

（大橋にゃお子）

王冠（コロナ）VS五輪

安倍首相は二月下旬、新型肺炎対策として、全国の小中高の一斉休校を要請しました。以来、日本の社会全体に感染症パニックが広がっています。

情報の伝えるところによると、チーム安倍は、百年前の米国のスペイン風邪対策を参考にしたとのこと。あれ！　チーム安倍はスペイン風邪と新型肺炎との違いを知らないの？

中国で新型肺炎が猛威を振るい始めたころ、横浜についたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」から新型肺炎の集団感染が発生しました。「水際」作戦はものの見事に失敗。海外からは「公衆衛生の危機にやってはいけない対応の見本」と酷評されました。以来、日本だけでなく、世界中に新型コロナウィルスは拡散し、どうにも手が付けられない状況になっています。

失地を挽回しようとばかり、チーム安倍は「対策」を連発。大規模なイベント等の自粛、そして、学校の一斉休校と。すでに感染の広がっている北海道の鈴木知事の対策の後追いです。お次は知事の出した「緊急事態宣言」です。というわけで、「緊急事態宣言」が発令できる新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正に向けて突進。

しかし時すでに遅し。七月の東京オリンピック・パラリンピックの開催も黄信号。新型肺炎の影響でスポーツ大会は次々にキャンセルや無観客試合。大体世界の選手が感染国日本に来ないのではないの？

（映女）

反天ジャーナル

状況批評
思想・状況・批評

日本国家の戦争責任・植民地支配責任にかんする天皇の謝罪について

伊藤晃

少し古い話になるが、昨年二月、韓国国会議長文喜相氏が、日本軍慰安婦問題について天皇の謝罪を望み、大要次のように語った。「一言でいい。日本を代表する首相か天皇、できれば天皇が、おばあさんたちに本当に申訳なかったと一言いえば、問題はすっかり解消されるだろう」。この発言は当然話題になり、反天皇制運動のなかでもそうであったが、多少当惑があったのか、論議はあまり拡がらなかったと思う。少し時を経て、私があるグループの集まりで話をしたとき、このことについて質問があった。私は文氏の右のような希望にこたえて天皇の謝罪を要求することには賛成でなかったから、その旨を簡単に答えた。その後、そのグループのなかで私の発言への批判があったということで、それをのせた刊行物をグループの責任者が送ってくれた。私はそれへの返事として私の考えを詳しく述べた手紙を送った。私は私の考えについてもう少し広く意見を聞きたいと思う。そこで本紙の紙面を借り、手紙にかなり加筆した上で、これを公表する。読者諸氏のご検討をお願いしたい。

〇〇様

お手紙と「××通信」拝受。ありがとう存じました。「××通信」の私への批判は、あなたも言われるようにもっと深めて議論すべきだと思います。そのために私の考えをもう少し説明すべきでしょう。あなたの質問への答えは短時間のため行き届いていませんでした。そこで以下ちょっと長く書きます。

私への批判の眼目は、天皇の「謝罪」が国家責任、また国民の加害責任をあいまいにするという私の言に対して、天皇・国家への責任追及と謝罪要求は、国民が自らの加害者責任をとらえ返す契機として働くであろう、という趣旨でしょう。

まず、私はこれまで国家と天皇の戦争責任・謝罪と国家的補償の義務について一貫して主張してきました。しかしどんな謝罪でもよいと一般的に言ったことはなかったのです。だから今回の問題も、この状況下でもし天皇の謝罪が実現されることになれば（あまり可能性はありませんが）、それはどんなものになるであろうか、ということを考えました。まずそこから詳しく述べてみたいと思います。

文喜相氏の発言を考えるとき、それがどんな文脈でなされたのかが重要です。文氏はこれまで、日韓間の問題を両国人民間でなく国家間の問題としてとらえ、両国家間の親密な関係、すなわち懸案事項の妥協の道を考え続けてきた人だと推察します。韓国の政治家である以上、その人民の意思は多少とも反映しているでしょうが（だから私たちはその発言を謙虚に受け止める必要がありますが）、人民の対日批判と怒りを背負った政治をやっていた人とは思いません。この人は「知日派」とされているようですが、そうだとすると日本の事情をいくらか知っているでしょう。天皇についての知識もあるはずで、国家間のギクシャクのトゲ抜いて問題が両国家のノドを通りやすい形にする、つまり問題の本質はそのままである気分を作り出す上で天皇がおりおり働いてきたこと（皇室外交の重要内容です。日本側にも以前、天皇のこうした働きに期待して天皇訪韓を言った人がいたと記憶します。戦後民主主義派に数えられる人で、だから人民どうしの和解のことも言っていたと思いますが）を知っているでしょう。彼の天皇謝罪に関する発言には、あきらかに、最近彼が徴用工補償に関して新法案を提起したこともつながっていると思います。

私は国家的和解のための天皇の融和機能が働かされることに反対なのです。天皇は国家のためとあれば、謝罪に類する言葉を用いることもあり得ましょうし、その場合それはいろいろ波紋を呼びおこすでしょう。しかし

その天皇発言は、日本の国家的行為の本質を明らさまにしないような文脈を工夫するなかでなされるにちがいないと思います。私は、文氏の発言はむしろ、私たちが天皇の謝罪をどのように語ってはならないかを示唆するものだと考えます。彼の言うように、「天皇の一言で問題がすっかり解消される」のは両国家、とりわけ日本国家にとっての話です。

つぎに、今度のような場合であっても、それはわれわれの天皇責任の追及に使えるし、またそれは日本人民がその加害者責任を自らとらえかえす契機にならざるをえない、と「××通信」は言います。この「ならざるを得ない」は一つの論理ではあるかもしれないが、その道筋を示していません。これまで私たちの（あなた方のもそうだと思うが）天皇制批判、天皇責任の追及は、こんにちの人民多数が依然としてその加害者性に無自覚である状況を変える道筋を見出していない、と私は思います。そのことについて少し述べます。

過去の戦争加害について当時の国民には国家への受動性があったでしょうし、それはある程度やむを得なかったのかもしれない。しかし「やむを得ない」は戦後においては成り立ちません。ところがその加害に関する責任意識の欠如（図々しい無責任の主張はその上に乗っている）において、国民はむしろ天皇・国家の責任回避とほぼ一体になり、その加害性を言うものを「変なことを言う」極少数派たらしめるまでになりました。戦後ナショナリズムはこのような状況を実現しました。こういう天皇・国民一体のなかにあっては、仮に文氏の希望のように天皇が謝罪のことばを述べるとして、それが呼びおこす波紋はつぎのようなものでしょう。①天皇が国民を代表して謝ってくれたのだから、われわれにとっても問題は終わりだ。これ以上われわれとしてやることがあるか。あるいは②天皇は侮辱された。われわれが侮辱されたのと同じだ。

そこで問題は、戦後天皇と戦後国民とのこの一体性をわれわれは解体できるか、ということになる。それが「××通信」の「ならざるを得ない」を「論理」から「道筋」に転化することの重要点だと私は考えるのです。そしてそのことをこれまでわれわれはやれなかった。それはなぜでしょうか。

いろいろ理由はあると思いますが、ここでは一点だけ。以前から私は、反天皇制運動が天皇制の悪を叫ぶことは十分にやったが、戦後天皇、ことに明仁天皇が作り出した「良い面」こそ天皇の過去・現在の責任をごまかし、同時に国民の天皇に関する意識を作る大きな要素になってきたことを、説明はしたものの、その意味について人びとの納得を得ることで大きな効果をあげられなかった、と強く感じてきました。皇室外交は戦没者慰霊、災害地・社会的弱者訪問などとともにその「良い面」、現存国家に国民を同調させるかなりの力をもった媒介物なのです。それは戦後民主主義の政治・思想潮流をも広くとらえました。この流れは戦後天皇制の「良い面」に天皇制という存在そのものを容認するという妥協の根拠を見出し、明仁天皇の三〇年の間に実際妥協に到達しました。

文喜相氏がそうした思想状況を十分に理解していたかどうかはわかりませんが、とにかくこの人は皇室外のもつ意味に着目し、少なくとも日本人民を国家間和解に同調させるよすがとして利用したことになります。韓国人民の方がこれで引っ張られるのかどうかは私にはわかりませんが、しかし文氏提案の徴用工関する新法案には韓国国内にかなり批判があるようですね。

念のため最後に申し上げますが、私は文氏の発言に乗った形で私たちが天皇謝罪について語ってはならないというのです。韓国人民が天皇謝罪を求めることには、文氏がこれにかかわりがあろうとなかろうと、私は少しも異議がありません。むしろ私たちはそれに応えなければならない。それは日本人民の力で日本国家に植民地支配・戦争犯罪への謝罪と補償を認めさせる戦い（その停滞に韓国人民は批判があるはずです）をもう一度建てなおすことでしょう。そのなかで、国家行為のすべての責任者であった裕仁天皇の後継者が天皇の責任を認め、謝罪するとすれば（私はそれを要求する）、それは問題の本当の解決に結びつく意味を持つと思います。

大体私の考えはこんなところです。あなた方のお仲間で議論して頂きたいし、私もその議論に加われれば大変幸せに存じます。

（二〇一九年一二月）

ぬくとぅーく NETWORK

「日の丸・君が代」ＩＬＯ／ユネスコ勧告実施市民会議、３月１日発足

渡辺厚子（「日の丸・君が代ＩＬＯ／ユネスコ勧告実施市民会議）

二〇一九年三月ＩＬＯ理事会、四月ユネスコ執行委員会で承認公表されたセアート「日の丸・君が代」強制是正勧告に対し、「日の丸・君が代」や「『日の丸・君が代』強制」に反対して闘ってきた教育労働者、市民、学者、弁護士など多様な人が、勧告実現を求める市民運動を起こそうと、昨夏より準備し、三月一日「日の丸・君が代」ＩＬＯ／ユネスコ勧告実施市民会議 を発足させた。

当日は、一六〇名の参加者を得て「市民会議」は元気に船出した。新型コロナによる自粛騒ぎがある中で、首都近県のみならず、東海・関西・中国地方などからの参加者があり、関心の高さと期待をひしひし感じた。

当日発表された呼びかけ人は三四名、賛同人八五名、反天連を始め賛同団体は一〇二に及ぶ。

シンポ・発言登壇者は岡田正則さん（早稲田大学）、中田康彦さん（一橋大学）、布施恵輔さん（全労連）、前田朗さん（東京造形大学）、朴金優綺さん（在日本朝鮮人人権協会）、残念ながら体調等で不参加だった中原道子さん（VAWWRAC）、志田陽子さん（武蔵野美術大学）からは録音メッセージなどが届けられた。

金井弁護士からの主催者挨拶に続き、寺中誠共同事務局長のコーディネートで始められたシンポジウムは、中原さんのアジアから見える「日の丸・君が代」の歴史的意味の共有問題、志田さんの憲法論から切り込んだ判決と今回の勧告の憲法論的意味への問題提起、中田さんから今勧告がこれまでの申し立て・勧告とは質を異にし憲法論として正面から出されたことの意義や運動の次世代継承問題、岡田さんから主に再雇用問題に対するセアート勧告の課題が語られた。多様な切り口で、多様な問題提起がなされた大変面白い内容となった。

後半の発言は、まず布施さんから、ＩＬＯの舞台で仕切っている、政府・使用者代表経団連・労働者代表連合というトライアングル体制を崩し、国際水準の労働者の権利保障を勝ち取ろうと豊富な経験に基づいたお話があった。ついで前田さんから、国連での人権活動が遠い話になっているのはメディアにも大きな要因がある、国連総会で決議させた「平和への権利宣言」はほぼ知られていない、メディアへの働きかけが重要だ、と話された。朴金さんは、３月１日は朝鮮にとってとても重要な日、この日の発足を意義深く感じること、祖母から３代民族教育を受けてきたことの意味、無償化の問題、ヘイトと「日の丸・君が代」はコインの裏と表、と話されこれからも共に闘おうと締められた。元山さん、関さんは事情で不参加。

ついで教育現場の声として「君が代」五次訴訟原告予定の大能さんから発言があった。コロナの影響で、家庭の事情で働かなければならない生徒に内定取り消しの通知がきた、卒業式の簡略化指示がきたが「君が代」斉唱だけは入れろと強硬な命令だ、厳しい状況下、セアート勧告は一条の光、頑張ってやっていく、と決意が語られた。

この後、渡辺から声明文を読み上げ、最後に澤藤弁護士から閉会の挨拶を行なった。一六年にわたる「日の丸・君が代」裁判を振り返り、到達地平と課題を語られ、このセアート勧告を使って勝ち取るべき内容を諄々と語り、素晴らしい締めくくりとなった。

今後、五月末頃に文科省交渉を行う。質問書を送ったところ、〝あの質問に答えるには翻訳をしなければならない、約一ヶ月かかる〟という返事が来たためだ。

この鈍さ、セアートが日本の状況をよく知らないからあの勧告になった、と言い放っている傍若無人ぶり。そして今、防疫に名を借りたファシズムを進行させる政権。無為無策を取り繕うための突然の休校、集会自粛要請にいとも簡単に従う民を見て安倍はほくそ笑んでいるだろう。

私たちは決して諦めることなく、勧告を実施させ、各国の労働者が血を流して勝ち取り国際的に共有されている人権水準を我が手にしていく。

太田昌国の「みたび」夢は夜ひらく117

信じられないほどばかなことが起こる時代

このところよく思い出す言葉がある。美術史家の故・若桑みどりが『戦争がつくる女性像――第二次世界大戦下の日本女性動員の視覚的プロパガンダ』（筑摩書房、一九九五年。現在はちくま学芸文庫に所収）のあとがきに書きつけた言葉である。同書を担当した若い編集者は、送られてきた原稿の事実関係に関わる再調査を行ないながら、何度も言ったという。「こんなに信じられないほどばかなことが私たちの親の時代にはあったのですね！」。この感想を受けて、若桑は「あとがき」の末尾に書く。「そうです。こんなばかなことがあったのですよ。母親である女たちに、母親となる女たちに、否、すべての女性たちに、世代を越えて伝えなければならないことがあるのですよ。だから私は書いたのです。」

若桑の専門分野は、ミケランジェロなどの作品の図像学的分析で、もちろんその分野で数々の優れた著書を著した。なかには、『皇后の肖像――昭憲皇太后の表象と女性の国民化』と題した著書もある（筑摩書房、二〇〇一年）。だが、一九三五年生まれで、子ども時代に疎開と空襲を体験していた彼女は、晩年に至って、「戦争と平和」の問題をめぐって発言する機会を増やした。冒頭に触れた書も、敗戦五〇周年の一九九五年に刊行されている。ジェンダーの視点に基づく彼女の戦争論から、私は深い示唆を受けてきた。彼女によれば、戦争の問題はもっぱら男性に関わって描かれ記述されることが多いが、女性の協力なしには戦争は遂行され得ない。そのことを知り尽くしている為政者や軍部が、いかに女性を全面的に戦争に動員したか、そしてその際、文学・映画・音楽・絵画などの芸術表現を通して行なわれた戦争賛美の言説がいかに魔力を発揮したか――それを分析する若桑の原稿を読んで、戦争を知らない世代の編集者は、「こんなに信じられないほどばかなことが」、ひとり独裁者の独断専行によってばかりでは必ずしもなく、大衆の支持と翼賛の下に罷り通った時代を訝しく思ったのだろう。

同じころだったと思うが、私は、小林よしのりの『戦争論』を批判的に分析する若桑の講演を聞いたことがある。「慰安婦」問題についての小林の解釈を私はすでに批判していた。だが、小林の漫画作品は、とりわけ若い世代から、いわば「熱狂的な」支持を受けていることが傍目にも明らかだった。内容的には唾棄すべきその漫画が、どれほどの魔術的な「魅力」に溢れているかを、若桑は図像学的に分析した。私にはできない視点からの批判的な解釈で、刺激的だった。歴史的事実を歪める記述でありながら煽動力を持つこのような表現方法が、社会の基層をなす人びとから少なからぬ支持と共感を得ている事実を軽視すべきではないと考える点において、私は若桑と同じ場にあった。

振り返って総じて言うなら、「こんなに信じられないほどばかなこと」がこの社会の中で堂々と言われるようになった端緒は、この頃――今から四半世紀ほど前の、一九九〇年代初頭から半ばにかけての時期だったと思う。前述したように、敗戦から半世紀を経つつあった時期に相当する。私もすでにして若くはなかったから、人間の歴史がひたすら〈進歩〉や〈善〉に向かって、〈空想〉から〈科学〉に向かって、直線的に発展を遂げていくという牧歌的な歴史観を脱してはいた。それでも、人間が持つ〈過去から学ぶ〉力への信頼感を、辛うじてではあれ、我が身の裡に抱え込んでいたと思う。

二一世紀も一〇年を経て以降、事態は決定的に異なる段階に入った。もはや個々の問題を明示する固有名詞を繰り返すことも厭わしい。二〇一二年、第二次安倍政権が成立して以降の七年半は「こんなに信じられないほどばかなこと」が次々と現実化していく歳月であった。そしていま政権は、コロナウイルスの蔓延状況をも、己が保身のために思う存分活用しようとしている。〈歴史から学ぶ〉ことなく、暗愚の〈歴史を繰り返す〉この社会。『ペスト』を書いた（一九四七年）カミュのように、「人間のなかには軽蔑すべきことも多々あるが、同時に賛美すべきものも多い」と確信できるためには、歴史の事実を忘れずに伝え続ける人間が、より多く生まれなければならない。

（三月七日記）

マスコミじゃけの天皇制 44

1940年（「皇紀二千六百〈建国〉祭」・万博・オリンピック）と、2020年（「天皇代替わり」儀礼・オリンピック）

――〈壊憲天皇制・象徴天皇教国家〉批判 その9

天野恵一

二月一一日の「『代替わり』に露出した『天皇神話』を撃つ2・11反『紀元節』行動」（集会とデモ）を走り抜けた私は、二月二三日の新天皇（徳仁）の六〇歳の誕生日には、静岡の「天皇制とオリンピック――代替わり闘争のさ中から」の集会へ。

この日に予定されていた一般参賀は、新コロナウイルス感染拡大を恐れて中止、東京では「おわてんねっと解散集会　天皇のいない民主主義を語ろう」の討論集会は元気に実現した。

この静岡の集会での私の講演のテーマは、目前にせまっている東京オリンピックという〈国策〉と、まだ進行中の「天皇代替わり」儀礼という〈国策〉の関係を論ずることであった。私は、〈ウイルス〉によって中止においこまれかかっている今回の東京オリンピックも「3・11」原発震災からの「復興」を政府・マスコミが連呼している「復興オリンピック」であるが、かつての戦争拡大のため中止においこまれた1940年の「幻の東京オリンピック」も関東大震災からの「復興」を世界にアピールするためのオリンピックであったという事実についてふれることから話をはじめた。

一九三八年三月には「国家総動員法」が制定されていることに象徴されているように、戦争へ向けた「国民総動員」体制づくりは着々と進められている状況下で、戦争の長期化は不可避との判断にいたる。そうした体制づくりに活用しようと予定していたナチ（ベルリン）オリンピックを受けて準備していた「東京オリンピック」の方は、会場づくりの資材も不足しており無理（返上）となったのである。この年は「紀元二千六百年奉祝」という神の国日本の「建国神話」による国民精神総動員の大国家イベントの年であり、そちらの国策に集中することが支配者たちによって選択されたのだ。実は、この年は「日本大博覧会（「万博」）」も準備されており、今年の東京オリンピック同様、前売りも開始されていたが、こちらの方も中止においこまれている。

侵略戦争へ向けて「挙国一致」の総動員体制へ向けての神国日本の排外主義ナショナリズム体制を、「皇紀二千六百年」（天皇を中心とした神の国の「建国神話」）と「オリンピック（「君が代・日の丸」づけ）・「万博」（大国日本）の「祝祭ナショナリズム」三本立ての構想は、力量的に無理があり「皇紀二千六百年」のみを残し、二つは中止とあいなった。

一九四〇年の紀元節（二月一一日）の昭和天皇の「詔書」は、こうである。

「朕惟フニ神武天皇惟神ノ大道ニ遵ヒ一系無窮ノ宝祚ヲ継ギ万世不易ノ不基ヲ定メ以テ天業ヲ経綸シタマヘリ

歴朝相承ケ上仁愛ノ化ヲ以テ下ニ及ボシ下忠厚ノ俗ヲ以テ上ニ奉ジ君民一体以テ朕ガ世ニ逮ビ茲ニ紀元二千六百年ヲ迎フ／今ヤ非常の世局ニ際シ斯ノ紀元ノ佳節ニ当ル爾臣民宜シク思ヲ神武天皇ノ創業ニ馳セ皇図ノ宏遠ニシテ皇謨ノ雄深ナルヲ念ヒ、和衷戮力益々国体の精華ヲ発輝シ以テ時艱ノ克服ヲ致シ以テ国威ノ昂揚ニ冨メ祖宗ノ神霊ニ対ヘンコトヲ期スベシ」。

古川隆久は『建国神話の社会史―史実と虚偽の境界』（中央公論社・二〇二〇年）で、この「詔書」をこうコメントしている。

「神武天皇が御先祖の神々を敬って一つだけで終わることなく続く皇位を継いで基礎を固め、歴代天皇はこれを引き継いで人民に仁愛を及ぼし、君民が一体となって現在に及び、建国から二千六百年を迎えた。現在は大変な時期である。神武天皇の創業に思いをはせ、難関を克服し、国威を輝かし代々の天皇の霊に報いるようにせよ、というのが大意です。やはり日中戦争の勝利に向けての国民動員を正当化するために建国神話が使われていることがわかります」。

今回の「代替わり」儀礼も〈神の国ニッポン〉の天皇建国神話に基づく儀礼のオンパレードであった。そして、その渦中で国家での審議もナシで中東派兵は実行された。天皇自身の「生前退位」希望の政治メッセージから始まった「代替わり」。安倍は最初は「想定外」であせったか、「退位」儀礼をすませて東京オリンピックという〈祝祭（天皇の国・「日の丸・君が代」づけ）ナショナリズムづけの政治コースに、うまく取り込み、それをステップに「明文改憲」という政治を構想した。今〈新型コロナウイルス〉でその安倍政治はボロボロ、しかし「インフルエンザ等特別措置法」を改正し、「緊急事態宣言」をだす方針を示している。コロナ対策、すべて後手後手の大失敗を隠蔽し、混乱に乗じて強権体制づくり、間違いなく放火の責任者による〈火事場ドロボー〉政治。感染拡大は避けたい、しかし抗議行動を丸ごと「自粛」して権力の活動自粛「挙国一致」体制に翼賛するするわけにはいくまい。さて、どうする。

野次馬日誌

2月1日～2月29日

【2月1日】

皇位継承策◆政府内で対策案提示の見送り論が浮上。

【2月3日】

徳仁、雅子◆政策研究大学院大学を訪れ、国際シンポジウム「水の遺跡から地域の発展を考える」を聴講。

【2月4日】

百合子◆故三笠宮の妻が、右目の白内障手術のため、東京都中央区の聖路加国際病院に入院。

【2月5日】

華子◆婦人科系疾患の精密検査を受けるためにがん研究会有明病院に入院していた故常陸宮の妻が、退院。

習近平訪日◆自民、公明両党が、新型コロナウイルスによる肺炎拡大に関する対策本部をそれぞれ開催。自民党で、4月に見込まれる習近平・中国国家主席の国賓訪日に反対する意見が出て、対策本部で青山繁晴・参院議員が「習氏が天皇陛下に会見すれば、新型肺炎の終息宣言のように受け取られる」と述べ、「政治利用」への懸念を表明。

【2月6日】

信子◆故寛仁の妻が、柔道のグランドスラムパリ大会を視察するため、羽田発の民間機で出発。

「日の君」処分◆大阪弁護士会が、4日付で府教育委員会に対し、過去の処分を拒否理由にしないよう勧告。

【2月7日】

秋篠宮、紀子◆東京都千代田区の経団連会館を訪れ、第65回青少年読書感想文全国コンクールの表彰式に出席。

佳子◆東京・六本木の国立新美術館を訪れ、「ブダペスト　ヨーロッパとハンガリーの美術400年」展を鑑賞。

【2月8日】

徳仁、雅子◆訪日中のラーブ英外相が東京都内の英大使公邸で記者団の取材に応じ、徳仁、雅子が4月から6月をめどに英国を訪問する方向で調整していることについて「光栄に思う。春にお目にかかれるのが楽しみだ」。

【2月9日】

秋篠宮◆新潟市中央区の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催された社会福祉法人「恩賜財団済生会」の総会に出席。

【2月10日】

徳仁、雅子◆皇居・東御苑にある三の丸尚蔵館を訪れ、即位記念特別展「令和の御代を迎えて」を鑑賞。

皇位継承策◆菅義偉・官房長官が衆院予算委員会で、国会から求められている安定的な皇位継承策について、本格的な検討は4月19日からの「立皇嗣の礼」の終了後になると初めて明言。

【2月11日】

「高御座」◆徳仁が即位を宣言した際に立った「高御座」が、皇居から京都御所に陸路で搬送される。雅子が立った「御帳台」も一緒に運ばれ、京都御所で3月1～22日、正殿の儀で使用した道具や装束とともに一般公開される。

【2月12日】

紀子◆東京都千代田区のKKRホテル東京で開かれた「第24回結核予防関係婦人団体中央講習会」の開講式に出席。

【2月14日】

お茶の水女子大附属中事件◆お茶の水女子大付属中に通う悠仁の机に刃物が置かれた事件で、建造物侵入と銃刀法違反などの罪に問われた被告に東京地裁が、懲役1年6月、執行猶予4年の判決を言い渡す。

徳仁、雅子、久子◆徳仁、雅子が東京ドームを訪れ、「世界らん展2020―花と緑の祭典―」を観賞。故高円宮の妻久子と次女で同展実行委員会名誉顧問を務める千家典子と共に見て回る。

信子◆柔道のグランドスラムパリ大会視察のため、フランスを「非公式」に訪問していた故寛仁の妻信子が、羽田着の民間機で帰国。

【2月17日】

徳仁、雅子◆皇居・宮殿で、前年12月にイタリアで開催された聴覚障害者の国際総合スポーツ大会「第19回冬季デフリンピック競技大会」で入賞した選手らと懇談。

【2月18日】

秋篠宮、紀子◆東京・上野の日本学士院を訪れ、「第16回日本学術振興会賞並びに日本学士院学術奨励賞」の授賞式に出席。

G・シェンゲラヤ◆ギオルギ・シェンゲラヤ（ジョージアの映画監督）が17日にトビリシで死去、ジョージアの「国民的画家」ニコ・ピロスマニの生涯を描いた「放浪の画家ピロスマニ」などが日本でも公開され、同作は美智子も鑑賞したと報道。

【2月19日】

天皇誕生日祝賀会◆外務省が、東京都内で20日に開催予定だった天皇誕生日祝賀レセプションの中止を決めたと明らかに。

【2月20日】

信子◆故寛仁の妻が、21～22日に予定していた石川県への訪問を取りやめたと発表。

「令和」◆福岡県太宰府市が、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、元号「令和」の考案者中西進の講演など、22、23日に予定していたイベント3件を中止する。

【2月21日】

愛子◆宮内庁が、愛子が春、学習院女子高等科を卒業後、学習院大に進学すると発表。文学部日本語日本文学科で学ぶ。

大嘗宮◆前年11月に行われた「大嘗祭」の舞台として、皇居・東御苑に造営された大嘗宮の解体が終わり、部材の一部が跡地で焼却される。直径2メートルの穴に詰めた部材に、祭祀を担当する掌典らが皇居・宮中三殿の「賢所」から運んだ火を付ける。

【2月22日】

天皇誕生日◆ポンペオ米国務長官が、徳仁即位後初となる23日の天皇誕生日を前

に「米政府と国民を代表して心からお祝いする」との声明を発表。日米は、共通の価値観や利益に基づいて「自由で開かれたインド太平洋」構想を推進、「揺るぎない同盟を日々強化する」などとしたと報道。

【2月23日】

徳仁◆60歳の誕生日。これに先立ち、赤坂御所で即位後初めて記者会見。雅子は同席せず。皇居での一般参賀は、新型肺炎の感染拡大のため中止される。

天皇、皇族◆皇族や安倍晋三首相らが皇居・宮殿を訪れ、徳仁、雅子に祝意を伝える行事が行われる。午前、秋篠宮、紀子ら皇族が宮殿で徳仁と雅子にそれぞれあいさつ。午後、安倍首相ら三権の長が徳仁に祝意を伝えた後、皇族や三権の長、閣僚らが集まった祝宴が宮殿・豊明殿で開かれる。各国の駐日大使らを招いた茶会が催される。徳仁、雅子が夕方、明仁、美智子が住む皇居・吹上仙洞御所を訪れる予定だったが、明仁に風邪の症状があるとして、取りやめる。夜、秋篠宮一家と黒田清子夫妻が赤坂御所を訪れ、天皇一家と共に夕食。

天皇誕生日◆安倍晋三首相が、皇居で行われた「天皇誕生日祝賀の儀」に出席、妻昭恵と共に「宴会の儀」に出席。

【2月25日】

皇居外苑◆環境省が、皇居外苑（東京都千代田区）の東京五輪・パラリンピック後の利用拡大に向けた検討を始めたと報道。大規模イベントなどで積極的に活用し、まちづくりや外国人旅行者誘致といった都心のにぎわい創出につなげる狙いで、利用を皇室行事などに限る政府方針の見直しも視野に、6月に方向性をまとめる。

【2月27日】

立皇嗣の礼◆菅義偉・官房長官が記者会見で、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、秋篠宮が皇位継承順1位の皇嗣になったことを国内外に示す4月の「立皇嗣の礼」の一部縮小や手法の見直しを検討する考えを示す。

「高御座」◆宮内庁が、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月1日から予定していた京都御所（京都市）での玉座「高御座」の一般公開を延期すると発表。

3・11追悼式◆菅義偉・官房長官が記者会見で、3月11日に予定する政府主催の東日本大震災追悼式について「（岩手、宮城、福島の）被災3県にとって、重要な位置付けだ」。新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、開催規模や拡大防止措置を検討。

お茶の水女子大付属校◆お茶の水女子大（東京）が、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、付属の幼稚園と小学校、中学校、高校を28日午後から休校にすると明らかに。

【2月28日】

大嘗宮◆皇位継承の「大嘗祭」の舞台となった「大嘗宮」の解体工事が完了し、地鎮祭が、跡地の皇居・東御苑で行われる。宮内庁幹部らが出席。祭祀を担う掌典が、儀式の主要な舞台となった悠紀殿と主基殿の跡地に建てられた祭舎で祝詞を読み上げる。

皇居・三の丸尚蔵館◆宮内庁が、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、皇居・東御苑にある三の丸尚蔵館を2月29日から3月15日までの間、臨時閉館すると発表。即位記念特別展「令和の御代を迎えて」が4月12日までの日程で開催中だった。

3・11追悼式◆岩手、宮城、福島3県の一部自治体が、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、翌月11日に予定する東日本大震災の追悼式典について中止や規模縮小などをすると発表。

【2月29日】

3・11追悼式◆宮城県の村井嘉浩知事が、仙台市で新型コロナウイルス感染が確認されたものの、東日本大震災の県主催の追悼式典は3月11日に予定通り実施すると明らかに。感染につながる恐れがあるとして、ペンを共有する記帳は取りやめ、献花の花は使い回さないようにすると報道。

集会の「真相」

「代替わり」に露出した「天皇神話」を撃つ！2・11反「紀元節」行動

昨年の即位式～大嘗祭を頂点に展開された天皇の「代替わり」は、「立皇嗣の礼」を残して最終段階に至っている。しかし、一六年の明仁メッセージにはじまった天皇制のイベントは、天皇が憲法をはじめとする法体制や政治権力に強い影響力を行使し、「天皇神話」が国家の儀式に明確に組み込まれていくという事態でもあった。二月一一日は「神武」建国神話を「祝う」日とされるが、徳仁天皇制においてこれらがどのような意味を持つかという問題を今後も問い続けなければならない。

今回の反「紀元節」行動は、文京シビックセンターで、講師として小倉利丸さんにこのかんの天皇制の問題を話していただいた。小倉さんは、資料として論文「内田樹の天皇制擁護論批判――明仁の退位表明をめぐって――」（https://www.alt-movements.org/no_more_capitalism/所収）や「文化・伝統のレイシズム」（反天皇制運動Alert四四号二〇二〇年二月所収）に加え、パワーポイント資料を使って、天皇～皇室が強調する「日本の伝統」の問題をさまざまな観点から提起してくれた。その中で強調されたのは、国家の政権の中核にあるメインストリームが、そのまま極右の「伝統」「ヘイト」派であり、これが日本の安倍政権やアメリカのトランプらのみならず、新自由主義のグローバル化において世界的にも中心になっていることの問題だ。この事態の中で、例えば日本国内に

おける「憲法擁護」がどれほど力を持ちうるのか。その重要さは当然だが、そのためにも私たち自身が「世界を変える」構想力を持ち、それを展開する中でつながりを作り広げていくということこそ重視されねばならない。

この小倉さんの問題提起に、参加者からも積極的な反応が相次ぎ、その盛り上がりの気持ちとともに反「紀元節」デモへ出発していくことができた。参加者は一四〇名。（蝙蝠）

おわてんねっと解散集会「天皇のいない民主主義を語ろう」

二月二三日、徳仁初の「天皇誕生日」におわてんねっとは解散討論集会「天皇のいない民主主義を語ろう」を開催した。何度も集会を開いた「ニュー新ホール」はこの日も一一〇人の結集で立ち見。「コロナもあるし……」という主催の予想を裏切って、最後までこの共闘を大切に思ってくれた人々が沢山いたことを実感。

おわてんねっとは「代替わり行事のすべてに抗議行動の場を作る」ことを目標にやってきた。ただ、討論の時間は圧倒的に不足し（会議では結構深い話もしたが）、もう少し参加者の生々しい言葉をのこしておきたかった。だからこの日の集会では、天皇制と民主主義に関する主催者からの発題を四つしたあとは、会場からフリーに話してもらった。

個人的には、「朝鮮民族解放闘争や日本人側からの連帯で、戦後の反日武装戦線も含めて天皇の命を標的とした闘争があったことを忘れるべきではない」という意見が一つ出たのがよかった。徳仁時代の反天皇制運動は、批判の重点をよりシステムや制度の問題におくだろう。だからこそ、過去をどのように飲み込むかはより問われる。民主主義は、単に制度ではない。それは歴史を生きた人間の苦闘と共にあるのだ。

ある集会参加者のツイッターでの感想。「反天皇制という同じ目標で集まるが、少しずつ意見が違う。象徴に統合されないあり方そのものの集会だった。」二〇一九年の闘いを経て、私たちはまた少し、新しい思想と言葉を獲得した。（井上森）

天皇制とオリンピック——代替わり闘争のさ中から

去る二月二三日（日・休）、静岡の「あざれあ」会館にて「『天皇誕生日』に考える」集会がおこなわれた。講師は、反天皇制運動連絡会の天野恵一さん。以下は講演内容のあらましである。

今回の「生前退位」は、天皇の「象徴としての行為」を安定的に確保するためのものであり、オリンピック直前の天皇の死を回避するためとか、わが子に国際舞台でデビューさせたい親心とかいうのはあくまで副次的理由に過ぎない。それ

【学習会報告】

遠藤正敬『天皇と戸籍：「日本」を映す鏡』

（筑摩書房、二〇一九年）

著者は政治学者で戸籍に関する著書が数冊ある。本書はその最新のもので、「日本人であれば持つことが当然とされる戸籍を持たない天皇が象徴として君臨しているのはなぜか、いかなる歴史的展開をたどってきたのか」を問うている。

天皇が人民を管理する謂わば身分帳が戸籍だが、天皇たちを管理する身分帳は別に皇統譜として存在する。さらに言えば植民地であった朝鮮の人民は朝鮮戸籍によって、准皇族とされた朝鮮の王族・公族は王公族譜によって管理された。ちなみに皇室典範に当たるものは王公家規範だったがこれは皇室令であって当然皇室典範の下位法となる。

第二章はこの皇統譜に充てられている。現行の皇統譜は一八七〇年から五〇年以上かけて編纂され一九二六年にようやく法制化された。なぜそんなにかかったのかと言えば、そもそも最初の天皇が誰なのかも、誰が、つまりどの範疇までが天皇なのかも、母親が誰なのかもわかっていなかったのだ。いや、「わかって」ではなく「決まって」と書くほうが正しいだろう。皇統譜とは天皇の系図であり、それは歴史学的な探求や考察ではなく「操作や粉飾などの便宜主義」の産物なのだ。皇統譜の成立史を研究することはそのまま万世一系がフィクションであることを暴き立てる作業になるのである。「そんなことも知らずに歴代天皇の名前をそらんじている日本人のなんと多いことか」と言ってみたくもなる。そもそも全ての系図は身分詐称の欲望を投影したものにすぎないが、それがよりによって皇統譜で明らかになるとは実に愉快だ。

他の章では「臣籍降下」の歴史と実情や、住民票もパスポートもなく、日本国籍を有すると法的に証明するのは困難であること、皇居を本籍地に選んだ人々の分析などがありそれぞれに興味深い。

歴史を強く意識して書かれているが、古代と近代を直結していたり無批判に古代を扱っていたりする手法には疑問の声もあった。

＊次回学習会は三月一七日（火）、テキストは古川隆久『建国神話の社会史』（中央公論社）。（加藤匡通）

にしてもこのアキヒト元天皇の憲法破壊に対し、批判の声がほとんどあがらなかったことは特筆すべきことであった。

「オリンピックはアマチュア精神に基づく非政治的な平和の祭典」といった「性善説」を疑ってかかる必要がある。聖火リレーや表彰台、選手村などの装置がナチスのベルリン・オリンピックから始まったという事実がその政治性をよく物語っているし、戦犯天皇ヒロヒトが東京オリンピックの名誉総裁として開会式で国際政治舞台での延命宣言ができたのもオリンピックの政治力といえる。

アマチュア精神もスペインの元ファシスト党員、サマランチ元会長によってふみにじられた。プロ化・商業化が進み、今や大会は祝祭資本主義と呼ばれる金儲けの舞台となっている。炎天下おこなわれるマラソン競技が問題となっているが、開催の期日もまた独占放映権を持つ米放送局の都合によって決まるという始末。そこには莫大な金が動いているのだ。国ごとに順位を競う国威発揚の場が金になるというオリンピックの仕組みそのものがスポーツをダメにしている。皇室の誘致運動への加担も大問題である。

アベ政権はいま、代替り＋オリンピック・ナショナリズム煽動で一挙に「改憲」へともってゆこうとしている。この政治の流れ総体と対峙する視座が運動には必要である。今こそ、天皇制に触れない護憲運動を越えてゆこう！　（山河進）

反天日誌

2月3日（月）●辺野古実防衛省行動
2月5日（水）●即位大嘗祭違憲訴訟（国賠請求分）第5回口頭弁論
2月7日（金）●原発被ばく労災裁判第15回口頭弁論
●東京オリンピック・パラリンピックを問う練馬の会集会
2月11日（火）●「代替わり」に露出した「天皇神話」を撃つ！2・11反「紀元節」行動（集会報告参照）
2月23日（日）●おわてんねっと解散集会　天皇のいない民主主義を語ろう
●「天皇制とオリンピック―代替わり闘争のさ中から」（静岡・集会報告参照）
2月24日（月）●デモくらい自由にやらせろ討論集会
●月例アンチ・オリンピックスタンディング
2月28日（土）●朝鮮独立運動101周年　植民地支配の反省を！　東北アジアに非核・平和を！
1月26日（日）●護衛艦「たかなみ」の中東派遣反対現地集会・デモ（集会報告参照）
2月29日（土）●地域からつくる反ヘイト運動
●「平成」代替わりを問う連続講座　象徴天皇制と〈転向〉
3月7日（土）●「日の丸・君が代」の強制を跳ね返す　神奈川デモ

集会情報 INFORMATION

開催中●朝鮮人「慰安婦」の声をきく13時～18時（月・火・休日休館）／WAM　女たちの戦争と平和資料館（地下鉄早稲田駅）／主催：同館
3月11日（水）●被災者・被災地切り捨ての「復興五輪」反対！3・11を反天皇制・反原発の日に！
12時～／星陵会館4F（地下鉄永田町駅ほか）／鵜飼哲・池田実／集会後デモ／主催：3・11行動実行委員会（fax.03-3446-9058）
●原発大事故当日アクション
17時～18時　東電本店前・19時～20時30分　首相官邸前／主催：反被ばく首都圏アクション実行委員会（090-8494-3856岡田）
3月15日（日）●大軍拡予算に反対する防衛省デモ&集会
15時デモ　外堀公園（JR市ヶ谷駅）／文京区民センター3C（地下鉄春日駅）／城村典文／主催：大軍拡と基地強化にNO！アクション2019（03-3961-0212）
3月20日（金）●女性国際戦犯法廷とは何だったのか
18時30分～／文京シビックセンター5F会議室（地下鉄後楽園駅）／金富子／主催：「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクションセンター、（一社）希望のたね基金（03-3818-5903）
3月21日（土）●戦争と治安管理に反対するシンポジウム
13時30分～／南部労政会館（JR大崎駅）／高山佳奈子・鵜飼哲・池田五律・山下幸夫・山中雅子・毛塚勝利・全日建運輸連帯労組関西生コン支部／主催：同実行委員会（連絡先03-3591-1301）
3月23日（月）●戦争・治安・改憲NO！霞ヶ関デモ
18時集合／日比谷公園霞門（地下鉄霞ヶ関駅）／主催：同実行委員会（連絡先03-3591-1301）
3月26日（木）●聖火ではなく、事故責任追及の炎を燃やそう
10時～／いわき市内／呼びかけ：オリンピック災害おことわり連絡会（info@2020okotowa.link）
3月26日（木）●中止だ中止　オリンピック　聖火リレーをやめろ！
18時30分～／新宿アルタ前（JR新宿駅）／呼びかけ：オリンピック災害おことわり連絡会（info@2020okotowa.link）・反五輪の会（https://hangorin.tumblr.com/
3月28日（土）●「聖火リレーとオリンピック災害」
19時～／郡山総合福祉センター／鵜飼哲・谷口源太郎・蛇石郁子・黒田節子ほか／呼びかけ：オリンピック災害おことわり連絡会（info@2020okotowa.link）

……神田川

●昨日は横浜のデモの後飲み過ぎ。今回の作業は、貂さんは作業お休みでした。（貘）